

# 根形公民館の下から見つかった古代のムラ ～ 境遺跡が語る根形地区の歴史～

袖ヶ浦市教育委員会生涯学習課

## 根形公民館周辺の歴史

根形公民館は「袖ヶ浦台地」と呼ばれる台地の南側縁辺部に位置します。この台地は、肥沃で広大な小櫃川沖積地に面し、比較的起伏が少ないという恵まれた環境であることから、数多くの遺跡が存在しています。

特に根形公民館周辺は、今回紹介する境遺跡（現在の根形公民館）（旧石器時代～中世）の他に、西ノ窪遺跡（現在の郷土博物館）（縄文時代～平安時代）や宮ノ越貝塚（縄文時代）など多くの遺跡が密集していることから「根形台遺跡群」と呼ばれています。

また根形公民館周辺には、遺跡だけではなく、源頼朝の伝承が残る八幡神社や、千葉氏と関連深い妙見神社といった歴史ある神社が現在も鎮座し、古代から現代にかけて連綿と人々の生活の舞台であったことを物語っています。

さかい

## 境遺跡 - 弥生時代から古墳時代の大集落 -

境遺跡は、昭和58年から平成5年にかけて3回の発掘調査が行われ、弥生時代後期から古墳時代前期（1世紀後半～4世紀）の竪穴住居72軒・方形周溝墓（四角形に形作った溝に囲まれたお墓）24基、古墳時代後期（5世紀末～6世紀初頭）の円墳2基、平安時代（9世紀）の竪穴住居12軒、中世の堀1条・土坑墓4基が見つかりました。遺構は見つかりませんが、旧石器時代の石器や縄文土器も見つかりました。これらの調査結果から、弥生時代後期から古墳時代前期にかけては居住域と墓域、古墳時代後期には墓域、平安時代には居住域といったように、時代によって様々な利用がされていたことがわかりました。

中でも、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集落は、竪穴住居と方形周溝墓が繰り返し作られ続けたことがわかりました。長期にわたる集落であったことから、時代の変化に伴い、竪穴住居は円形・楕円形から隅丸方形へ、方形周溝墓は四隅が切れているものから二隅や一隅が切れているものへ、といった変化も見ることができます。また、火災を受けた住居も見つかり、当時の生活用品や焼けて炭化した柱が見つかるなど大変貴重な発見となりました。境遺跡に隣接する遺跡からも、多くの竪穴住居・方形周溝墓が見つかり、根形公民館の下にあったムラは、台地の広範囲に広がる大規模な集落であったものと思われます。

文化の秋です。根形公民館下から見つかった古代のムラで生活していた人々に思いを寄せて、公民館周辺を散策してみたいはいかがでしょうか。